

デジタルトランスフォーメーションの実現へ向けて 第 21 回

# NTT Com が推進する「Smart World」とは、どんな世界なのか？

NTTコミュニケーションズ(以下、NTT Com)では現在、中期経営戦略として「Smart Worldの実現」を掲げています。

Smart Worldとは、ITで世の中のさまざまな社会課題を解決していく“スマートな社会”のことを指す言葉。NTTグループ全体がこのSmart Worldの実現に取り組んでおり、グループ会社のNTT Comでも、Smart Worldの実現のため、データの利活用を支えるサービスを強化し、企業のDX(デジタルトランスフォーメーション)に貢献する“DX Enabler”になることを宣言しています。

この9月30日には、顧客のデジタルデータの収集・蓄積・管理分析をワンストップで提供するデータ利活用プラットフォーム「[Smart Data Platform](#)」の提供を開始。データ利活用アプリケーション「Apps on SDPF」と合わせて利用することで、データから新たな価値を生み出し、企業のDX化や社会問題の解決を推進するとしています。

Smart Worldを支えるデータ利活用プラットフォームとして「Smart Data Platform」があり、この2つがNTT Comの戦略の両輪となります。

この「Smart Data Platform」という新しいプラットフォームを取り入れることによって、企業のビジネスは、導入前と比べてどのように変わのでしょうか？そして、DX化が進むことで、どのような世界が形成されていくのでしょうか？NTT Comの池上聡氏と爪長美菜子氏に話を聞きました。

## 欧米に比べてデジタル化が遅れている日本を変えたい

冒頭でふれたように、NTTグループの中期経営計画「Your Value Partner 2025」では、事業活動を通じて社会的課題の解決のために、Smart Worldを実現することで、持続可能な社会や、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献する、というビジョンが掲げられています。

NTT Comでも、Smart Worldを実現するために、

「企業のDXに貢献するDX Enablerになる」という方針を明らかにしています。

しかし、なぜSmart Worldを実現するために、NTT ComがDX Enablerになる必要があるのでしょうか？池上氏はその理由として、日本の成長の鍵がDXにあることを指摘しました。

「NTT Comではかねてより、日本企業のデジタルビジネスに対する取り組みが、欧米に比べて遅れていることを問題視していました。お客さまの関心事がDXへ進む中、我々がご支援するICTも変わっていかないといけないと思います。当社が企業のDX導入をサポートし、促進することは、社会的課題の解決や社会の持続的成長にもつながっていき、ひいてはSmart Worldの実現にもつながっていきます」



NTTコミュニケーションズ株式会社  
経営企画部  
サービス戦略部門長  
池上 聡氏

企業・社会の持続的成長に向けて

企業・社会の持続的成長

社会的課題の解決

デジタルトランスフォーメーション(DX)

一方で爪長氏は、市場のニーズとしてもDXが求められていることに言及しました。

「企業がICTに期待しているものが、従来からは変わってきていると強く感じています。これまでICT導入の検討の

中心は情報システム部門でしたが、昨今はそれに加えて、DX推進を目的とする部門が立ち上げられ、ビジネスプロセス改善や新規ビジネス創出を目的としてAI/IoT等のICTの導入を検討するケースが多くなってきています」



NTTコミュニケーションズ株式会社  
経営企画部  
営業戦略部門長  
爪長 美菜子氏

爪長氏はさらに、企業のDXを推進するためには、パートナー企業と共創していくことが重要だといいます。

「企業が自力でDXに取り組むには限界があると感じています。NTT Comでは、DX Enabler、まさにDXにおける先導役として、お客さまやパートナー企業とともにアジャイル手法で検討し、単なるITシステムの更改ではなく、新規ビジネス創出への貢献を目指しています」

NTTグループが一丸となって実現を目指す未来像が、Smart Worldです。Smart Worldは、デジタルトランスフォーメーションの実現によって社会的課題が解決され、企業や社会の持続的成長が達成された未来の世界を描いています。

このSmart Worldの中でも、NTT Comでは、具体的に7つの重点領域を定めました。その7つとは、「Smart City(都市)」「Smart Factory(工場)」「Smart Education(教育)」「Smart CX(Customer Experience=顧客体験)」「Smart Health Care(健康)」「Smart Mobility(自動車など乗り物全般)」「Smart Work Style(働き方)」です。

NTTコミュニケーションズが提案するSmart World



「具体的な取り組みを挙げると、たとえばSmart Factoryの領域では、“技術・技能伝承のサポート”が進みつつあります。

近年、日本では人手不足が社会的課題となっていて、特に製造業では、団塊世代の大量退職が迫る一方、将来を担う若手が少なく、技術・技能伝承が進まないといった事態が発生しています。その課題を、デジタルの力で解決できるよう取り組んでいます」(爪長氏)

## なぜ新しいプラットフォームはデジタル化が推進できるのか？

9月30日にスタートした新たなプラットフォーム「Smart Data Platform」は、まさにこのSmart Worldの取り組みを支える基盤として誕生しました。

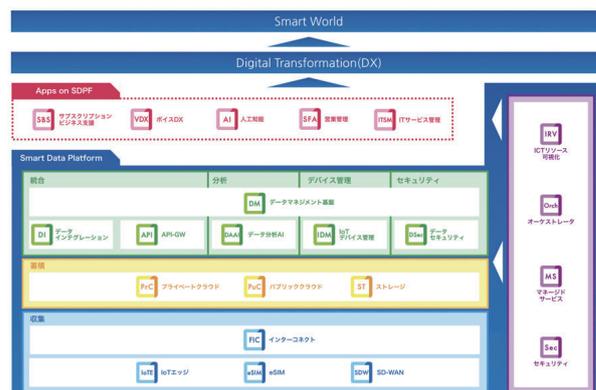
「Smart Data Platform」では、データの収集・蓄積・管理分析に必要な機能を、用途やニーズに応じて柔軟に組み合わせながら、ワンストップで企業に提供します。

収集・蓄積については、NTT Comが培ってきたネットワークやクラウドを進化させ、Software Defined化された柔軟なネットワークにより一元的に提供します。今回のリリースに合わせ、閉域網内での安心安全なアプリケーション接続を可能とするインターコネクト機能の強化と、安価に長期保存が可能なオブジェクトストレージの提供を開始しました。

管理分析については、NTT Comが主に工場向けに提供していたデータ利活用基盤や、NTT DataとNTT Comが両社の強みを活かして開発を進めて来た「iQuattro」等をデータマネジメント基盤として用意。さらに、付加機能としてNTTの研究所技術を活用した機密データの匿名化等ラインアップを拡充しています。

利活用を行うアプリケーションに関しては、サブスクリプションビジネスを行うために必須となる顧客管理・契約管理や課金・請求管理などの基本機能を備え、手間なくスピーディーにビジネスを開始できるサブスクリプションビジネス支援サービス「Subsphere」や、NTT研究所の40年にわたる自然言語処理研究成果を活用し高い精度で人の言葉を理解し自然言語処理を行う「COTOHA」の各サービスを用意。さらに、企業のICTの運用プロセスを支援する「ServiceNow」等、各種アプリケーションを安全安心にワンストップで提供するといいます。

「このようにNTTグループとしての強みを生かしつつ、我々が持たない領域については外部の企業とパートナーシップを組み、プラットフォームを拡充させていきたいと考えています」(池上氏)



## いずれ到来する「Smart World」に適応するために

池上氏は続けて、顧客の経営課題を解決するための「Smart Data Platform」の活用例を挙げました。

「DXを進める際にはデータ利活用が鍵になってきますが、データ利活用を行う上で顧客企業は多くの課題を抱えています。

例えば、オンプレミス環境と複数SaaS利用を前提としたネットワーク接続はどのように最適化をはかるべきか、機微なデータをどのようにセキュアに取り扱えばよいのか、複数箇所に点在しフォーマットも異なるデータの統合をどのように進めればよいのか、モノ売りからコト売りへ改革を進めたいが仕組みがない、等です。

これらの課題解決のために『Smart Data Platform』の機能を活用頂く事により、例えばインターコネクト機能を用いて複数SaaSへセキュアに接続し、データインテグレーション機能を用いてデータ統合を行いデータの利活用を進める等、お客さまの多くの課題を解決できると考えています」

まとめると、世の中に溢れるさまざまな社会課題を、ITの力で解決していくスマートな社会(Smart World)を実現するために、NTT Comは「Smart Data Platform」という新たなプラットフォームを作り、企業のDX化を進めていく、ということです。

スマートな社会が到来すれば、当然、ビジネスシーンでは今以上にITの活用が求められるでしょう。まだDX化が進んでいない企業は、遅かれ早かれ訪れるSmart Worldの時代に向け、今からDX化を検討してみてはいかがでしょうか。